平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	姉妹都市交流事業	担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成元年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	国際交流の推進	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-020703-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年海外派遣実施要綱 外国人のための語学支援者登録制度要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>もりや工業団地にドイツとアメリカに縁のある企業が進出したことをきっかけに、ドイツ・マインブルク市（1990年）、アメリカ・グリーリー市（1993年）と国際姉妹都市を提携したことから、市民レベルでの訪問・交流が始まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際姉妹都市からの市民・高校生等の訪問を受け入れ、市民との交流の機会を設けることで、市民レベルでの交流を推進する。受け入れ時には、市の国際交流協会と連携して日本文化体験、市民宅へのホームステイ、市内学校訪問、近隣観光案内等を行う。 ・青少年海外派遣事業として、夏休み期間中に国際姉妹都市に青少年を派遣し、ホームステイをすることを通じて市の国際交流事業の担い手育成を行うとともに、グローバル社会に対応できる人材育成を行う。ドイツ連邦共和国マインブルク市、アメリカ合衆国グリーリー市の2市を1年交代で訪問する。 ・国際交流協会と連携し、市民と行政がそれぞれの特性を活かした事業を行う。地域に暮らす在留外国人のための日本語教室、国際理解を推進するための協会事業と連携し、多文化共生社会実現への取組を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>市民の国際意識の高揚を図り、国際姉妹都市との友好な関係を築くことで、市民を中心とした交流に発展させる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
地域に国際交流の担い手が育ち、継続的に交流を推進できるよう、市民レベルでの交流の更なる活発化を図る。 ※姉妹都市交流に係る経費として「国際交流協会補助事業」を統合する。	国際交流協会の日本語講座委員会と連携し、在留外国人対象の災害訓練を実施するなど、地域の人材等の資源を活用した事業を行った。青少年海外派遣及びその他国際交流事業への参加者が姉妹都市交流事業に参加・協力を行った。 8月23日から30日に国際姉妹都市であるマインブルク（ドイツ連邦共和国）の市民14名が来市し、姉妹都市交流を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
国際交流関連事業の延べ参加者数（人）	1,219.00	1,415.00	1,148.00	1,140.00	1,150.00
異文化への理解を深める事業開催回数（回）	64.00	61.00	91.00	90.00	90.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	国際交流関連事業への延べ参加者数は、平成27年度に目標値を達成しているが、平成28年度においては目標値を下回る状況となっている。参加者数については、事業の開催規模により増減するものと考えられることから、目標値から微減の状況からほぼ目標値に到達していると思われる。また、異文化への理解を高める事業の開催回数は、国際交流員を活用した事業の多数開催や姉妹都市交流に青少年海外派遣経験者も参画するようにするなど、各事業を連動して企画運営することにより、成果が向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☒ 統合 ☐ 廃止・終了	・国際交流関係事業の開催日数等を考慮すると、これ以上の参加者数の増は見込めないことから、数値的目標値は維持しつつも、青少年海外派遣や国際交流員を活用した事業で育成した市民が市の国際交流推進に関する事業で参画・協力をできるようにする。 ・平成29年度から類似事業である「国際交流協会補助事業」、「青少年海外派遣事業」と統合し、事業名称を「国際交流推進事業」に変更する。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	1,163	761	356	4,544	4,544
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,163	761	356	2,809	2,809
	一般財源	0	0	0	1,735	1,735
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	413.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,693	0	0
トータルコスト		1,163	761	2,049	4,544	4,544

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	国際交流協会補助事業		担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成元年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働	補助事業
予算科目コード	01-020703-02 補助	根拠法令・条例等	守谷市補助金等交付規則		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
国際姉妹都市の締結に伴い、市民の国際交流に関する意識が高まったことから組織された。	市民による国際化を推進するため、推進役を期待する国際交流協会に補助金を交付し、市との連携による国際化推進事業の展開を図る。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市の国際化の推進の一翼を担う市国際交流協会に対し補助金を交付することにより、国際姉妹都市との交流及び在留外国人支援の担い手としての役割が期待できる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
在住外国人に日本語及び日本文化体験を行う場を設けるとともに、市民が参画する機会を設ける。また、青少年海外派遣団員の派遣後の活動を企画運営し、継続的に多世代が交流できる場づくりを行う。	日本語講座を水曜日の夜間と金曜日の昼間の2部開催とすることで、多くの在住外国人が参加できるようにした。 大使講演会を講演とコンサートの2部構成とし、広く市民が異文化に触れる機会を提供した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
異文化への理解を深める各種事業の回数（回）	55.00	50.00	80.00	80.00	80.00
事業の延べ参加者数（人）	2,772.00	4,211.00	4,250.00	4,250.00	4,250.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	日本語講座の開催をこれまでの夜間講座に加え昼間にも実施するなど、実施日を2倍にし、在住外国人の生活パターンに合わせた事業運営を行ったため、成果が向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会の会員数に変化がない中で、様々な事業を展開していることから、更なる成果の向上は難しいが、継続的な事業の実施が成果の維持につながるため、今後も事業経費の補助を継続する。 ・平成29年度から類似事業である「姉妹都市交流事業」、「青少年海外派遣事業」と統合し、事業名称を「国際交流推進事業」に変更する。 			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	2,000	2,000	2,000	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,000	2,000	2,000	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	56.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	230	0	0
トータルコスト		2,000	2,000	2,230	0	0

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	国際交流員事業	担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成10年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	国際交流の推進	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-020703-03 単独	根拠法令・条例等	守谷市国際交流員任用規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
ドイツ・マインブルク市及びアメリカ・グリーリー市との国際姉妹都市締結に伴い、国際姉妹都市関係の強化、地域レベルでの国際化の推進を目的とし、平成10年からJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）による国際交流員の任用を開始した。	（一財）自治体国際化協会のJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）活用により、市の国際交流活動に従事する国際交流員（CIR）1名を任用し、国際交流事業の企画立案及び実施協力、海外からの訪問客の接遇、地域住民の異文化交流活動への協力、小・中学校における特別活動・課外活動への協力等を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民に対し、広くドイツ文化に触れる機会を提供し、国際姉妹都市との円滑な連携を図る。また、市民の異文化理解のための活動や在住外国人への行政サービスの補助を行うなど、多様化する市民のニーズに対応する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
乳児のいる市民が参加できる事業の企画やブッククラブ等従来行っていなかった事業を行うことにより、国際交流員が企画・実施する事業への市民の参加を促す。	広報もりやで募集を行い、小中学生対象の異文化理解を図る事業を夏休みに行った。また、各種講座を土日開催にしたことで、より一般市民の参加機会を増やした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
国際交流員が実施した講座等の実施回数（回）	49.00	49.00	81.00	80.00	80.00
国際交流員が実施した講座等の延べ参加者数（人）	1,152.00	837.00	1,007.00	1,020.00	1,040.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	各種講座の開催時期を土日及び夏休みに行うなど、日程を工夫することで多様な年代が参加できるようになったことから、成果が向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	国際交流員が一人で実施する事業に加え、職員及び国際交流協会会員が実施補助することで、より多くの市民が参加できる事業や、多様なニーズに応じることができるような事業を展開し、内容の充実を図る。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	4,987	5,456	4,555	5,023	5,023
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4,987	5,456	4,555	5,023	5,023
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	1,169.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	4,793	0	0
トータルコスト		4,987	5,456	9,348	5,023	5,023

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	青少年海外派遣事業	担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 2年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	国際交流の推進	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-020703-04 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年海外派遣援助要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
ドイツ・マインブルク市及びアメリカ・グリーリ市との国際姉妹都市協定締結に伴い、市民による草の根の国際交流を推進するため、国際姉妹都市との市民交流の一つとして事業を開始した。	派遣団員の選考や研修を市の国際交流協会及び在住外国人と連携により実施し、事業についての理解や派遣後の地域での国際交流のための人材育成を包括的に行っている。事業を通じて国際姉妹都市との交流を担う人材へと成長した海外派遣団員が、国際姉妹都市からの訪問団来市時のホームステイ受入や日本文化体験実施、観光案内の協力を行うなど、継続的に市事業へ参画している。近年では、海外派遣団員OB・OGが青少年海外派遣の研修に参画できるよう研修内容をコーディネートし、派遣後の幅広い活躍の場づくりを行っている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
国際姉妹都市との交流の担い手を育成するとともに、グローバル社会に対応する人材育成を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
団員の特性に合わせ、時流にあわせた研修を行う。 派遣後に地域において経験の活用が図れるよう配慮しながら、団員及びその家庭への働きかけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的について、参加者同士が共通理解を持てるよう募集要項や研修内容を工夫した。 ・事前研修は、語学、文化、治安、国際儀礼、海外旅行の基礎知識について、年齢別の習熟度に合わせ多様な経験を持つ講師を活用した。 ・研修時から派遣後の活動のための意識づくりを図ることで、姉妹都市来市時の交流事業への参画を推進した。 ・7月28日から8月4日に、国際姉妹都市グリーリー（アメリカ合衆国コロラド州）へ12名を派遣した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
青少年海外派遣事業に参加した市民の数（人）	13.00	13.00	13.00	13.00	11.00
派遣後に市の事業に協力した青少年海外派遣団員の延べ人数（人）	2.00	66.00	79.00	80.00	85.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	募集定員が決まっていることから、指標値における成果は停滞しているが、目標値は達成しており、また、青少年海外派遣団の延べ人数が着実に向上している状況から、成果は向上していると判断する。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に青少年海外派遣基金残高がなくなり基金を廃止したが、事業継続のため参加者の受益者負担を再考し、平成29年度から派遣費用の市負担分（個人負担分の1/2）の上限を30万円から10万円に改正し、市の財政負担の軽減を図る。 ・平成29年度から、類似事業である「姉妹都市交流事業」、「国際交流協会補助事業」と統合し、事業名称を「国際交流推進事業」に変更する。 			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	3,338	1,935	1,637	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	3,338	1,825	0	0	0
	一般財源	0	110	1,637	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	620.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	2,542	0	0
トータルコスト		3,338	1,935	4,179	0	0

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	国際交流研修センター維持管理事業		担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 2年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働	その他
予算科目コード	01-020703-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市国際交流研修センター設置及び管理に関する条例 守谷市国際交流研修センター管理運営規則		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成2年度にアサヒビール（株）茨城工場竣工を記念し、同社から寄贈された。	国際交流研修センター設備の点検・清掃委託・光熱水費の支払い等、日常の維持管理業務を行う。 また、毎週火曜日と年末年始を除く開館日に、シルバー人材センター委託による管理人を置くことで、利用者への対応等の施設管理を行う。 さらに、施設の老朽化が進んでいることから、計画的な修繕を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
施設の適切な維持管理により、国際交流活動や利用する市民の利便性が向上する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
シロアリ被害についての調査を行い、シロアリ防除について検討する。	シロアリ調査のため、床下点検口を25か所設置し調査を行った。結果として、1か所の被害確認ができた。次年度以降、防除方法について検討していく。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
年間延べ利用者数（人）	11,636.00	12,518.00	12,189.00	12,189.00	12,189.00
年間貸し出し件数（件）	494.00	518.00	614.00	600.00	600.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	利用者数及び貸出件数ともに目標値達成を維持していることから、成果は向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☒ 維持 ☐ 廃止・終了	施設の維持管理のための必要最小限のコストでの運営であるため、現状を維持するが、築後25年以上が経過し、施設の老朽化による修繕箇所が増加傾向にあるため、今後は定期的な点検の実施と、計画的な修繕が必要である。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	5,818	14,855	5,721	6,428	6,428
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	253	253
	一般財源	5,818	14,855	5,721	6,175	6,175
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	0	0	0
トータルコスト		5,818	14,855	5,721	6,428	6,428